

2021年度決算(案) 説明資料

相互会社としての使命	P1	保険料等収入、金融機関窓販の状況	P10
経営の差別化の歴史	P2	資産運用の状況(富国生命単体)	P11
100周年に向けて	P3	基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況	P12
中期経営計画(2022年度～2024年度)	P4～P5	健全性の状況	P13
新型コロナウイルス感染症への対応	P6	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント	P14
2021年度決算(案)のポイント	P7	2021年度決算の社員配当金案	P15
保険業績の状況(2社合算)	P8～P9	【参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P16

富国生命保険相互会社

2022年5月25日

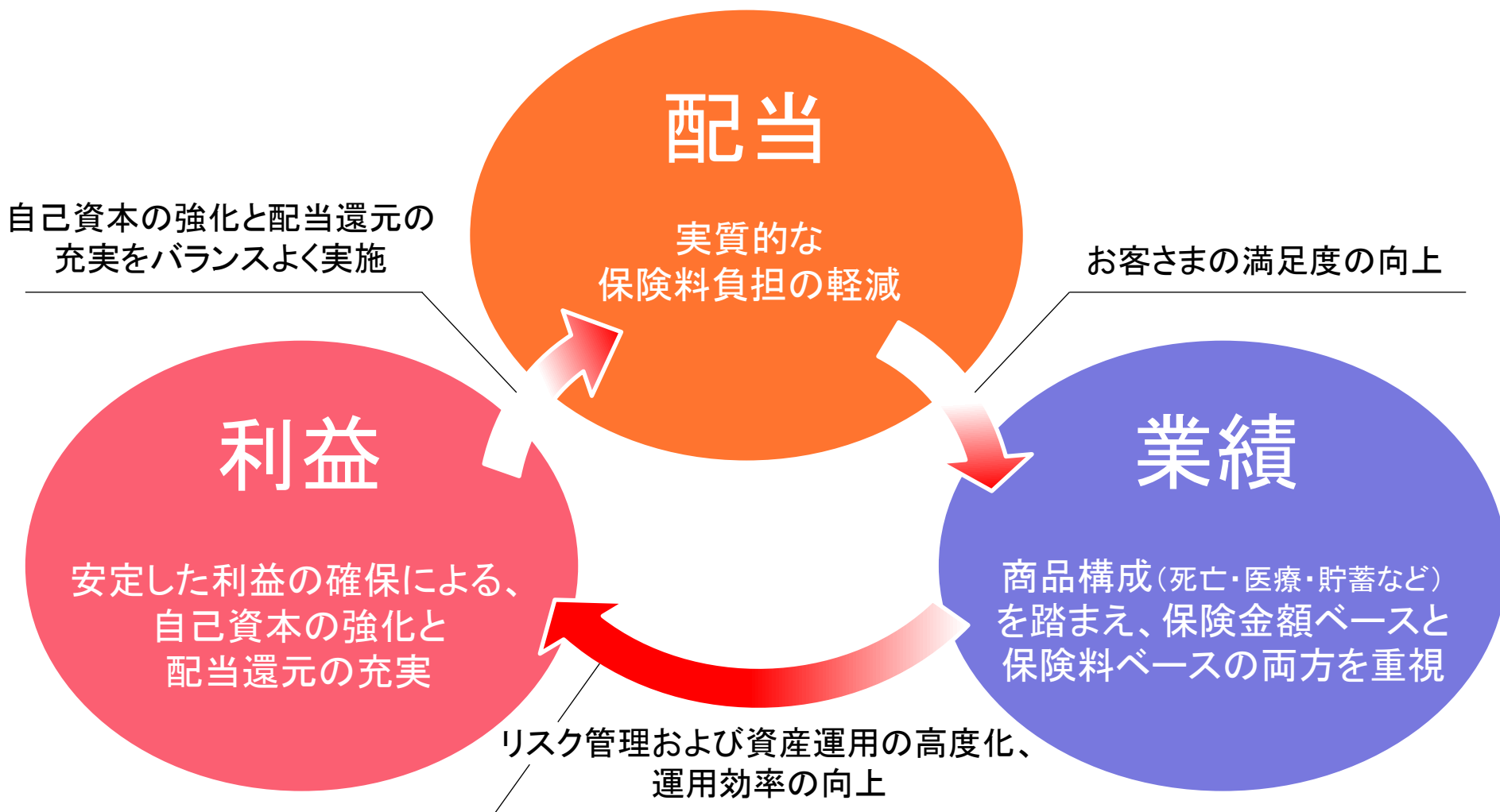


すてきな未来応援します

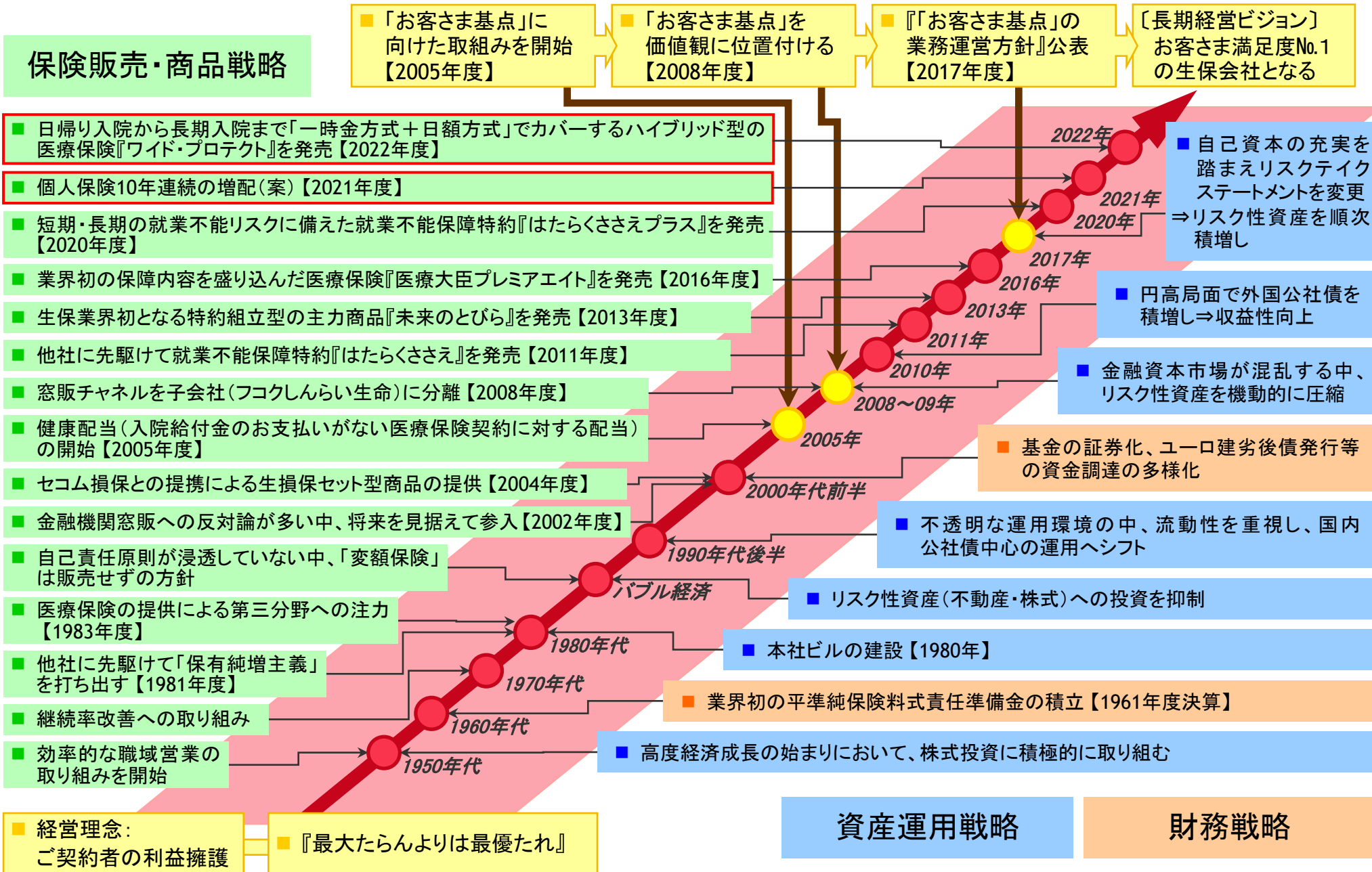
フコク生命

相互会社としての使命

安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。



経営の差別化の歴史



100周年に向けて



すまいる・ぎゃらりー

THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは
共感・つながり・支えあいをベースとした
次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと
そして、富国生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあう
真の“相互扶助”を体現する組織を目指す決意



特別支援学校生徒の
美術作品

おやさいクレヨン

創業

- 『保険事業の進むべき方向は、「ご契約者本位」しかない』という想いのもと相互会社として創業
- 創業以来、相互会社形態を貫く唯一の会社

1923年
創業

2018年
95周年

2019年

2020年

2021年

2023年
100周年

YouTubeチャンネル
「THE MUTUAL SQUARE」開設

100周年

- 「THE MUTUAL」の体現
- 富国生命に関わるすべての人と共感しあえる会社となる

100周年プロジェクトスタート

- 富国生命が考えていることや想いを、100周年プロジェクトのスタートアップとして宣言
- 100周年までの5年間で、次代の相互扶助を模索しながら発信していく

分科会活動
「NEXT100」スタート

「THE MUTUAL Art for children」の取組み

- 「すまいる・ぎゃらりー」(全国の特別支援学校生徒の美術作品を内幸町本社ビル地下2階に展示する企画)の作品をデザインとして活用し、子どもたちと社会がつながるお手伝い
- おやさいクレヨンを製作し、保育園等に寄贈

中期経営計画(2022年度～2024年度)①

- ◆ 当社の中期経営計画は、長期経営ビジョン「お客さま満足度No.1の生保会社となる」と現状とのギャップを埋めるために必要な取組みをまとめたもの
- ◆ 2022年度から新たにスタートする中期経営計画(2022年度～2024年度)の策定にあたり、その前提となる経営方針にサステナビリティに対する考え方を組み込むなど、持続可能な社会の実現に貢献する姿勢を明示した

経営理念/価値観

経営理念

ご契約者の
利益擁護

社会への
貢献

働く職員の
自己実現

価値観



お客さま基点

当社の役職員一人ひとりが「もし自分がお客さまだったら」を常に想像しながら、お客さまが心から安心できるであろう、フコク生命ならではのサービスや経験を創り出し、提供していくこと

経営方針

経営方針

- 経営基盤のさらなる強化を図り、お客さまに安心を提供する
- 生命保険事業を営む相互会社として、持続可能な社会の実現に貢献する
- “お客さま基点”での人材育成を通じて、職員の働きがいを高める

長期経営ビジョン

長期経営ビジョン

お客さま満足度No.1の生保会社となる

経営戦略

経営戦略

あらゆる分野で差別化を徹底的に追求する

内部管理方針

中期経営計画

カテゴリー別戦略

中期経営計画(2022年度～2024年度)②

- ◆ 中期経営計画(2022年度～2024年度)では、「事業変革を図るための基盤固め」と「多様化する社会課題を解決する取組み」を重点取組みテーマとし、これらを推進することで『持続的成長のための好循環』の構築につなげる

長期経営ビジョン

お客さま満足度No.1の生保会社となる

経営戦略

あらゆる分野で
差別化を
徹底的に追求する

カテゴリー別戦略

内部管理方針

中期経営計画(2022年度～2024年度)

重点取組みテーマ

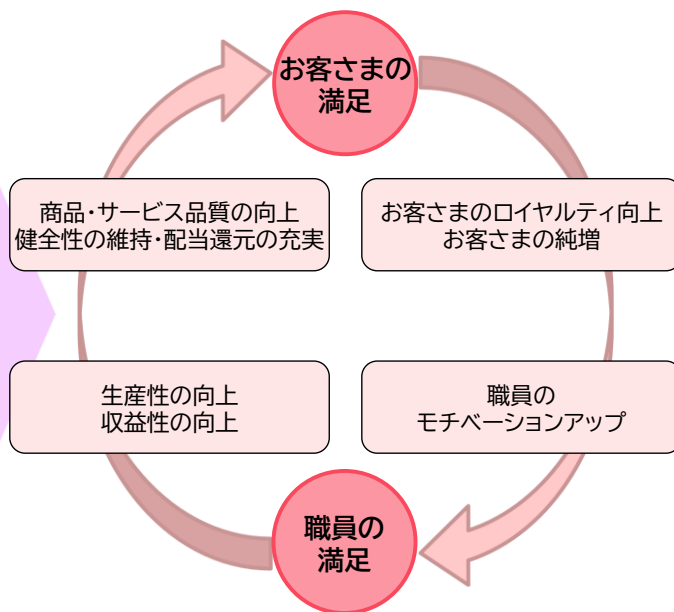
I. 事業変革を図るための基盤固め

- ① お客さま満足度の向上につながる
営業職員制度改革を実行する
- ② フコク生命グループにおける
代理店チャネルの最適化を図る
- ③ 事業費効率の向上と
システム投資の最適化を図る
- ④ 新たな仕組みを通じて変革意識を高める

II. 多様化する社会課題を解決する取組み

- ① Face to Faceとデジタルの融合を通じて、
自助を促すコンサルティング力を強化する
- ② 未来を担うZ世代とのつながりを強化する
- ③ 働く女性やシニア世代に安心を提供する
- ④ 地域課題の解決に向け、
グループ体の取組みを推進する
- ⑤ サステナビリティを重視した取組みにより、
ステークホルダーの期待に応える

III. 「持続的成長のための好循環」の構築



新型コロナウイルス感染症への対応

◆ 新型コロナウイルス感染症への対応における基本方針

- お客さまおよび職嘱員をはじめとする人の命を最優先に考えること
- われわれの事業活動により、感染者が増えていくことは絶対に回避すること

◆ お客さまへの取組み

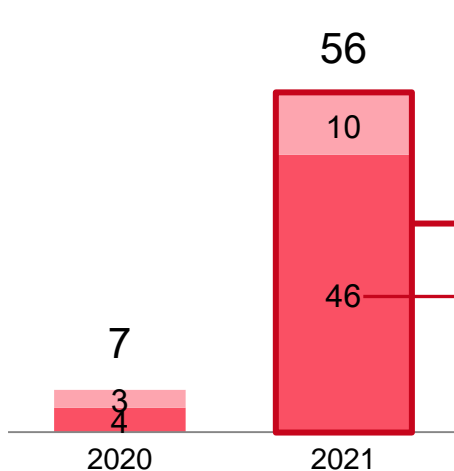
- ・ 新型コロナウイルス感染症を災害保険金等の支払対象として取扱い
- ・ 医療機関の事情等により入院できず、臨時施設等または自宅において療養された場合でも入院給付金等をお支払い
- ・ 保険料払込猶予期間の延長、各種手続きの簡略化等の特別取扱いの実施
- ・ 医療保険において、新型コロナウイルス感染症等に対する入院見舞給付金が従来の2倍となる「感染症サポートプラス」の取扱いを2022年1月31日まで実施、期間を限定することにより保険料を変えずに既契約のお客さまに対しても保障を拡大
- ・ オンライン面談や各種資料の電子的送付システム等を導入し、お客さまへよりパーソナルな情報を提供

◆ 職員の取組み

- ・ 在宅勤務や時差出勤を実施するとともに、マスクの着用や手洗い・手指の消毒など基本的な感染防止策を徹底
- ・ 首都圏および近畿圏の職嘱員を対象に、3回目までワクチンの職域接種を実施

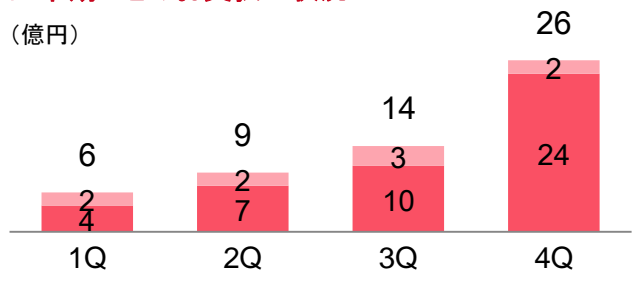
新型コロナウイルス感染症に係る保険金・給付金のお支払い状況

(億円) ■ 給付金 ■ 保険金



四半期ごとのお支払い状況

(億円)



(億円)

	2020年度	2021年度
個人保険の疾病給付金(富国生命)	266	301
新型コロナに係る給付金	4	46
その他	262	254

※富国生命、フコクしんらい生命の2社合算

◆ 2021年度の新型コロナウイルス感染症に係る保険金・給付金の支払額は56億円

◆ 上記以外に、2021年度末までに新型コロナウイルスに感染したものの、2022年度にお支払いが見込まれる保険金・給付金の見積額は50億円(2021年度の費用に計上)

(億円)

2022年度の支払見積額		
	支払備金	保険金等支払引当金
50	16	34

◆ 2022年度の支払見積額を含む2021年度の費用に計上された新型コロナウイルス感染症に係る保険金・給付金は107億円

2021年度決算(案)のポイント

1 保険業績はコロナ禍以前を上回る水準に回復

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は、前年度比10.6%増加、新契約年換算保険料は同26.7%増加。コロナ禍以前(2019年度)を上回る水準に回復
- ◆ 前年度は第1四半期に新型コロナウイルス感染拡大を受けて営業活動を自粛したが、今年度はコロナ禍による制約のなか、通期で営業活動を行ったことが前年度比増加の主な要因
- ◆ 2社合算の解約・失効は、前年度の反動があったものの、コロナ禍以前と比べ改善
- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料はほぼ横ばい、第三分野については前年度末比1.0%増加と、開示以来18年連続で増加

2 保険料等収入は増加

- ◆ 2社合算の保険料等収入は、前年度比8.1%増加、コロナ禍以前を上回る水準に回復

3 基礎利益は増加

- ◆ 2社合算の基礎利益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより保険関係損益が減少する一方、富国生命の利息及び配当金等収入が過去最高を更新するなど利差益が増加したことにより、前年度比1.7%増加

4 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は前年度末比29.6ポイント低下の1,274.3%となり、引き続き高い水準を維持

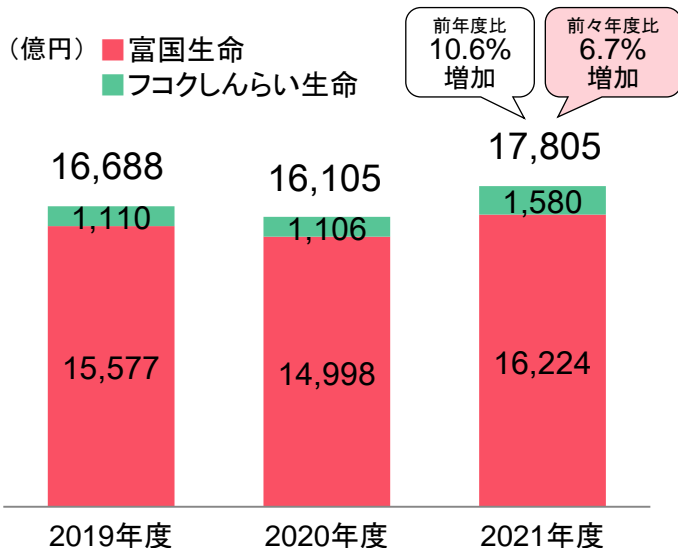
5 個人保険分野は10年連続増配

- ◆ 個人保険分野では、死亡保障性特約および医療保険の配当率を引き上げるとともに、就業不能保障特約について危険差配当を新設
- ◆ 個人保険分野の増配は10年連続となり、引き続きお客さまの配当への期待に応えていく

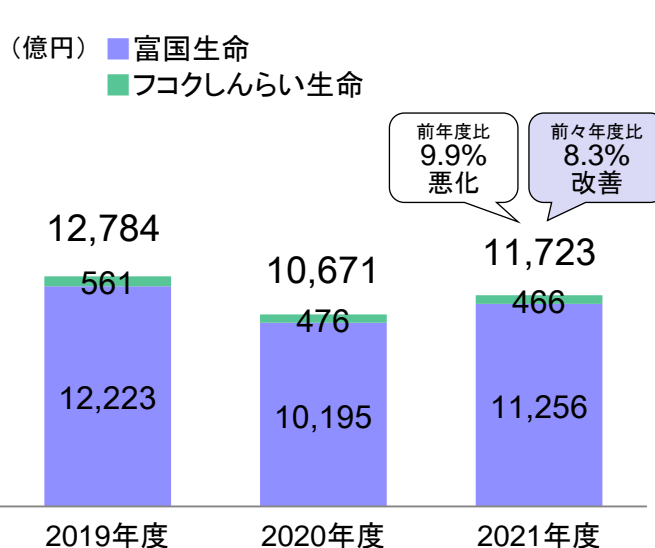
保険業績の状況(2社合算) 新契約・解約失効

※個人保険と個人年金保険の合計

新契約高

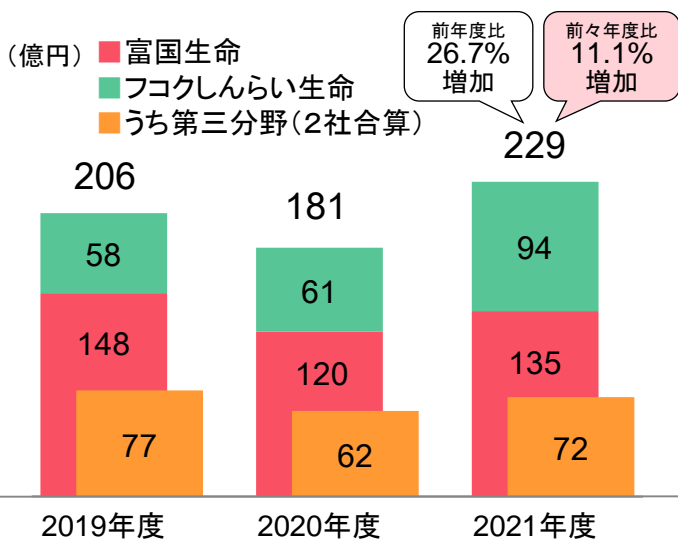


解約失効高

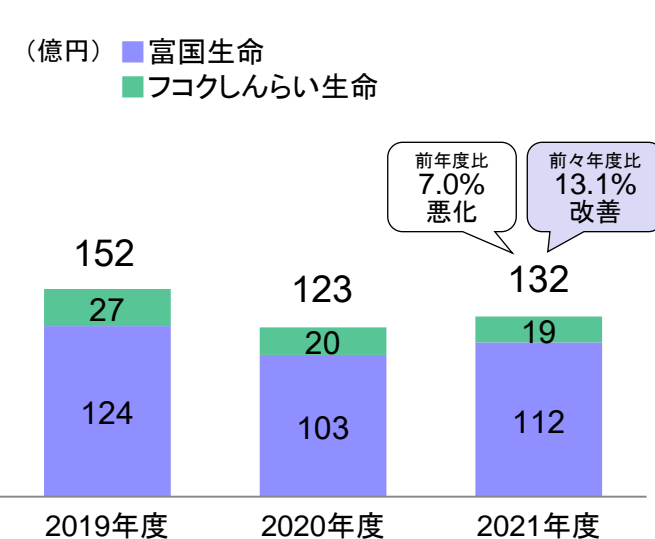


- ◆ 新契約高は、前年度比10.6%増加
- ◆ 前年度は第1四半期に営業活動を自粛したが、今年度はコロナ禍による制約のなか、通期で営業活動を行ったことが主な要因
- ◆ コロナ禍以前(2019年度)を上回る水準に回復
- ◆ 解約失効高は、前年度比9.9%悪化、前年度の反動があったものの、コロナ禍以前と比べ改善

新契約年換算保険料



解約失効年換算保険料

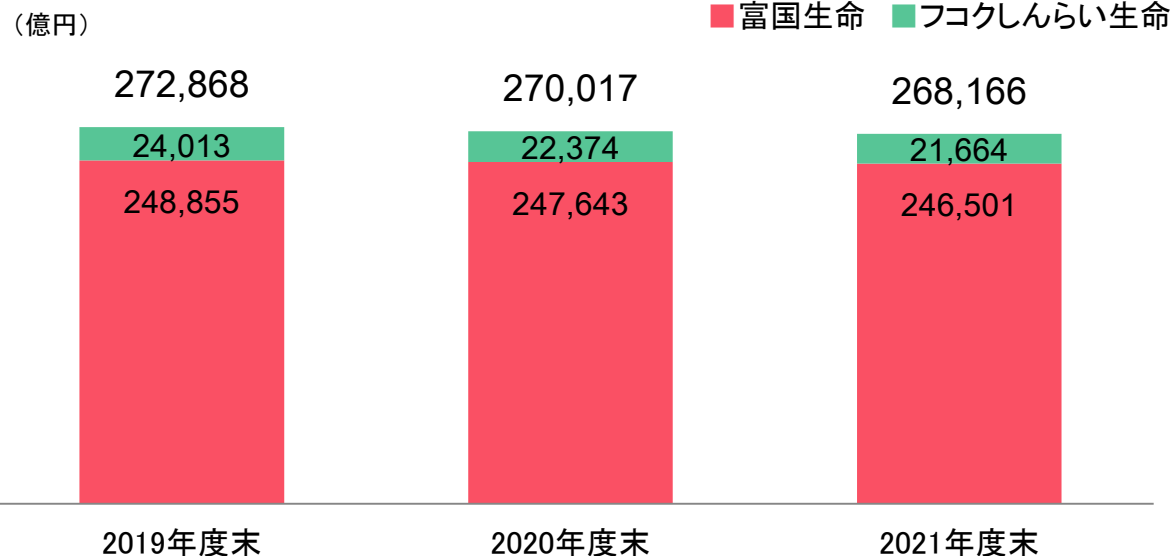


- ◆ 新契約年換算保険料は、前年度比26.7%増加
- ◆ 解約失効年換算保険料は、同7.0%悪化

保険業績の状況(2社合算) 保有契約

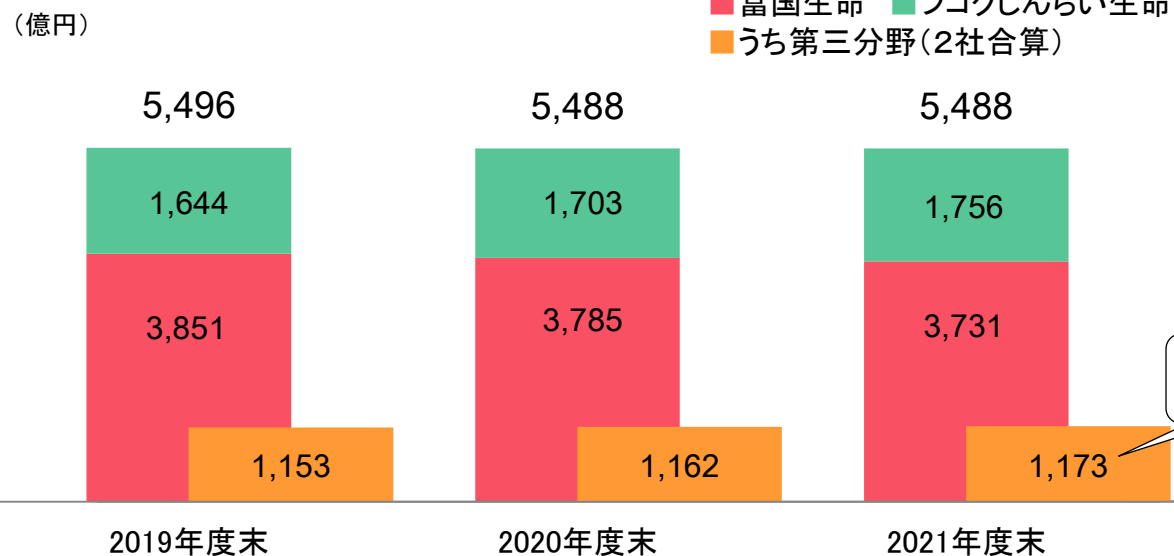
※個人保険と個人年金保険の合計

保有契約高



- ◆ 保有契約高は、前年度末比0.7%減少
- ◆ 減少幅は年々縮小しており、引き続き反転増加に向けて取り組む

保有契約年換算保険料

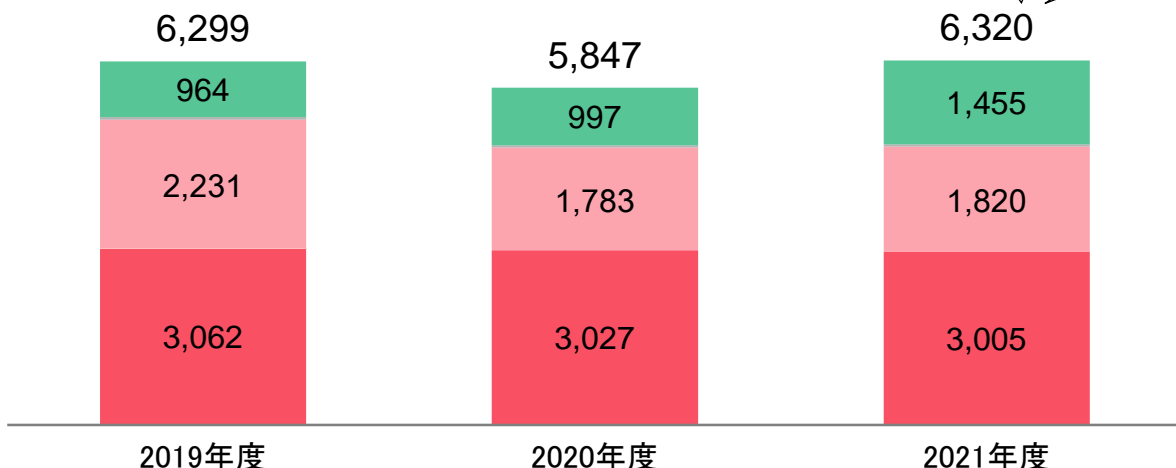


- ◆ 保有契約年換算保険料は横ばい、うちフコクしんらい生命は前年度末比3.1%増加
- ◆ 第三分野の保有契約年換算保険料は、同1.0%増加と、開示以来18年連続で増加

保険料等収入、金融機関窓販の状況

保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算)

(億円) ■ 個人保険分野 ■ 団体保険分野 ■ フコクしんらい生命



前年度比
8.1%
増加

前々年度比
0.3%
増加

- ◆ 保険料等収入は、前年度比8.1%増加
- ◆ コロナ禍以前を上回る水準に回復
- ◆ フコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の販売が好調だったことが主な要因

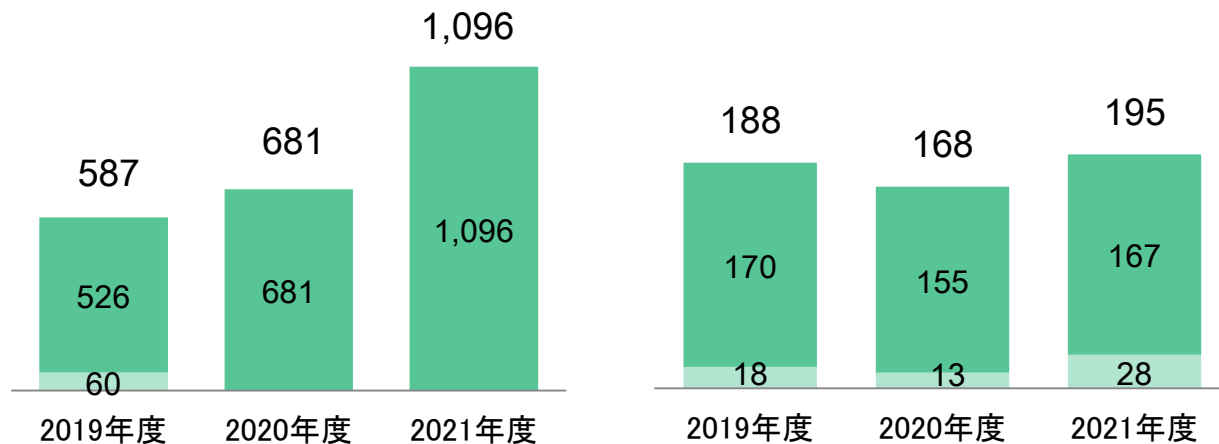
金融機関による保険販売実績(フコクしんらい生命)

【貯蓄性一時払商品の販売実績(収入保険料)】

【保障性商品の販売実績(年換算保険料)】

(億円) ■ 利率更改型一時払終身保険 ■ 一時払終身保険

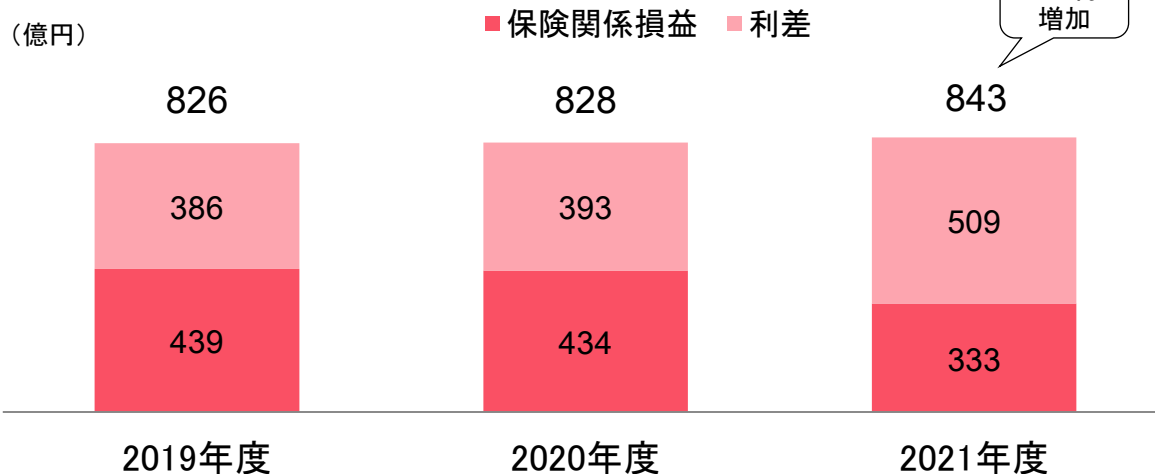
(百万円) ■ 医療 ■ 定期



- ◆ 貯蓄性商品は、利率更改型一時払終身保険の販売が好調に推移し、前年度比で大幅に増加
- ◆ 保障性商品は、コロナ禍以前を上回る水準に伸展

基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況

基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 基礎利益は、前年度比1.7%増加
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより、保険関係損益が減少
- ◆ 富国生命の利息及び配当金等収入の増加が寄与し、利差益が増加

【参考】基礎利益の算定方法改正について

2022年度より適用される基礎利益の算定方法改正を反映した場合の2021年度の基礎利益は748億円(反映前と比べ94億円減少)

経常利益・当期純剰余(富国生命単体)

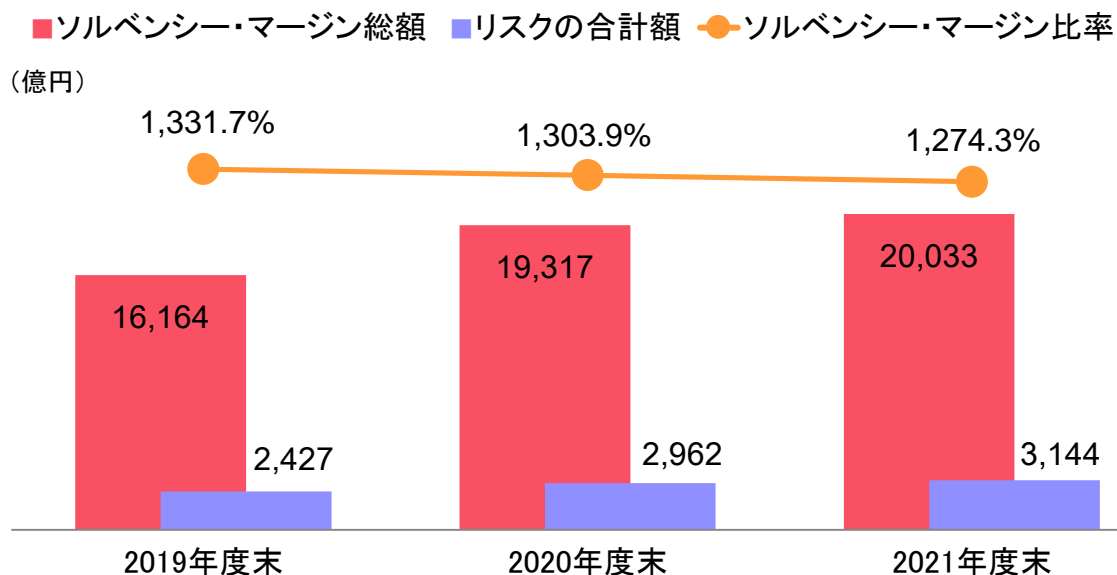
(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度
基礎利益	834	843	858
キャピタル損益	4	0	△60
臨時損益	△350	37	△410
うち追加責任準備金繰入額	241	△205	1,128
うち危険準備金繰入額	105	148	△744
うち保険金等支払引当金繰入額	—	—	34
経常利益	488	881	387
特別損益	△116	△519	△43
うち価格変動準備金繰入額	114	500	38
当期純剰余	341	354	333

- ◆ 長引く低金利環境下において支払能力の一層の強化を図るため、新たに終身保険の追加責任準備金を積立て※
※危険準備金からの振替えにより
- ◆ そのうえで、危険準備金を312億円積み増したため、臨時損益は△410億円
- ◆ その結果、経常利益は前年度比493億円減少の387億円
- ◆ 当期純剰余は、同21億円減少の333億円

健全性の状況

連結ソルベンシー・マージン比率



- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比29.6ポイント低下の1,274.3%
- ◆ 外貨建資産の増加などによるリスクの合計額の増加が主な要因

【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)(富国生命単体)

	2019年度末	2020年度末	2021年度末 (速報値)
ESR	212.5%	222.6%	228.9%

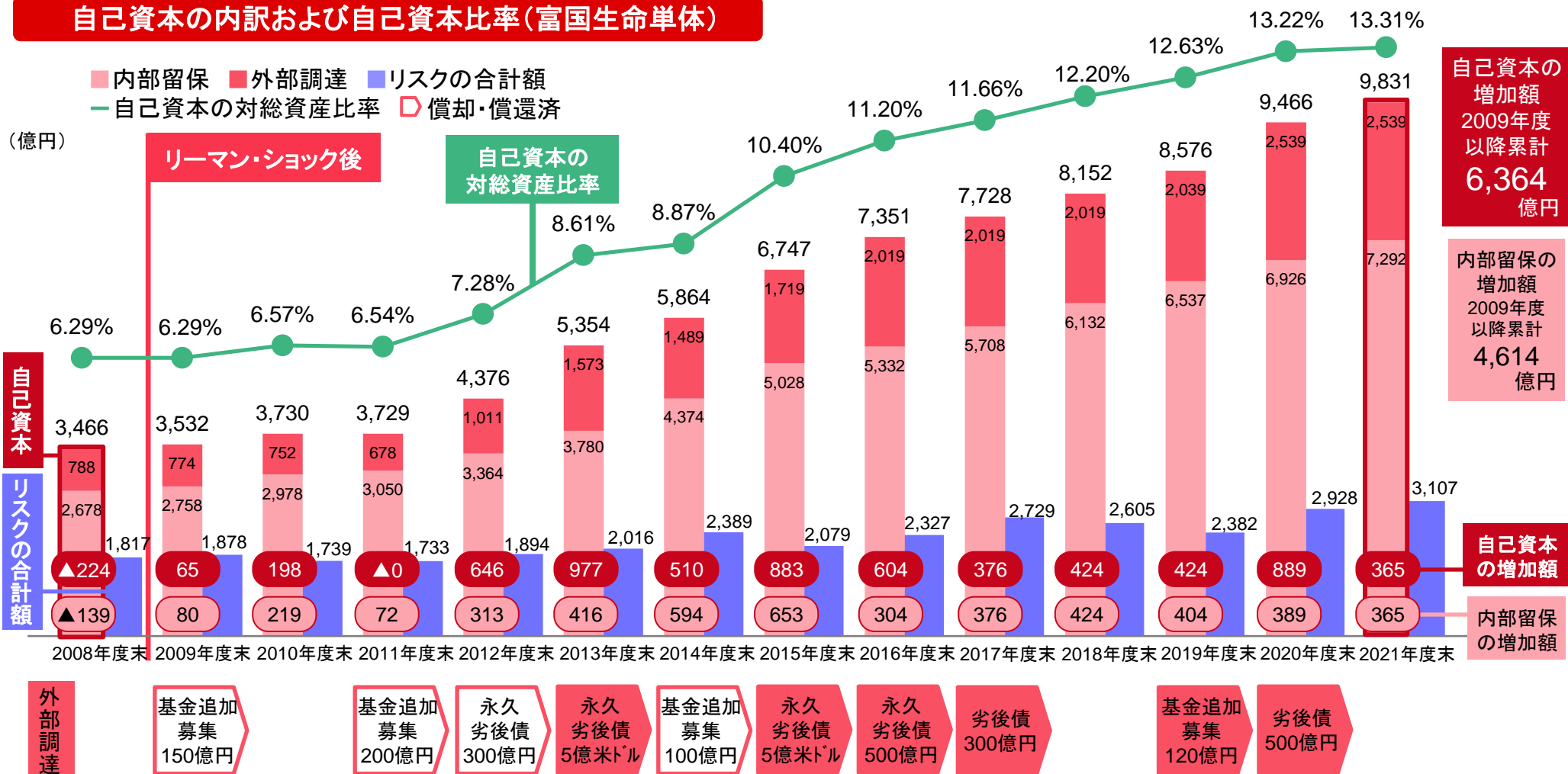
- ◆ 富国生命における経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)は、前年度末比6.3ポイント上昇の228.9%

(注) ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている。

オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント

- ◆ いかなることがあってもゆるがない強固な財務基盤を構築すべく、経常利益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- ◆ 2021年度末の自己資本は、内部留保により前年度末比365億円増加。毎年安定的な内部留保を実現
- ◆ 統合的リスク管理(ERM)を着実に進め、保険金等の確実な支払いと配当還元の充実を通じ、ご契約者に安心・満足を提供

自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)



2021年度決算の社員配当金案

相互会社である当社は、今後とも強固な財務基盤を維持しながら、配当還元の充実を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減をさらに進めてまいります。

■ 個人保険分野: 10年連続の増配

増配額は約2億円、増配件数は約140万件

- ✓ 危険差益への貢献が大きい主力商品『未来のとびら』の死亡保障性特約について、2年連続で危険差配当を増配
- ✓ 2022年1月に取扱いが終了した『感染症サポートプラス』(新型コロナウイルス感染症等に対する入院見舞給付金が従来の2倍)の対象であった医療保険について、入院給付金の支払いがなかったご契約に対して危険差配当を増配
- ✓ 給付金の支払状況が安定している就業不能保障特約について、危険差配当を新設

■ 企業保険分野

団体年金保険のうち確定給付企業年金保険等について、未実現分も含めたキャピタル損益に基づき配当率を引き下げ

■ 2017年度加入(経過5年)、男性、月払、10年更新型
過去5年間に入院給付金の支払いがない契約の例示

- ①未来のとびら(5年ごと配当契約)
死亡保険金2,000万円、介護保険金300万円、
就業不能年金140万円
- ②医療大臣プレミアエイト(5年ごと配当契約)
入院日額6千円、入院見舞給付特則あり

加入年齢	月払保険料	2022年度の受取配当金		保険料に対する配当金の割合※
		受取配当金	増配額	
40歳	12,488円	14,534円	332円	5.8%
医療保険	2,556円	2,856円	54円	1.9%
50歳	21,938円	37,845円	389円	9.6%
医療保険	4,044円	5,604円	108円	2.3%

※ 過去5年間の保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

■ 2012年度加入(経過10年)、男性、月払、10年更新型
満期まで入院給付金の支払いがない契約の例示

- ①ケア・イズムアドバンス(5年ごと利差配当契約)
死亡保険金2,300万円+新積立型介護保険の死亡給付金、
介護保険金50万円
就業不能年金140万円
- ②医療大臣プレミア(5年ごと配当契約)
入院日額6千円

加入年齢	月払保険料	2022年度の受取配当金※1		保険料に対する配当金の割合※2
		受取配当金※1	増配額	
40歳	14,362円	74,827円	392円	8.0%
医療保険	2,568円	19,017円	—円	7.8%
50歳	26,417円	160,545円	407円	10.2%
医療保険	4,110円	36,042円	—円	9.2%

※1 受取配当金には満期契約に対する長期継続特別配当(40歳加入は16,651円、50歳加入は28,770円)が含まれます。

※2 保険期間(10年)を通じた保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

【参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

	2019年度		2020年度		2021年度	
		増減率/pt		増減率/pt		増減率/pt
新契約高 ^(※)	1兆6,688億円	1.9%	1兆6,105億円	▲ 3.5%	1兆7,805億円	10.6%
富国生命	1兆5,577億円	▲ 0.5%	1兆4,998億円	▲ 3.7%	1兆6,224億円	8.2%
フコクしんらい生命	1,110億円	55.3%	1,106億円	▲ 0.4%	1,580億円	42.8%
保有契約高 ^(※)	27兆2,868億円	▲ 1.3%	27兆17億円	▲ 1.0%	26兆8,166億円	▲ 0.7%
富国生命	24兆8,855億円	▲ 1.1%	24兆7,643億円	▲ 0.5%	24兆6,501億円	▲ 0.5%
フコクしんらい生命	2兆4,013億円	▲ 3.1%	2兆2,374億円	▲ 6.8%	2兆1,664億円	▲ 3.2%
新契約年換算保険料 ^(※)	206億円	15.6%	181億円	▲ 12.3%	229億円	26.7%
富国生命	148億円	▲ 2.9%	120億円	▲ 18.9%	135億円	12.2%
フコクしんらい生命	58億円	2.23倍	61億円	4.3%	94億円	55.2%
保有契約年換算保険料 ^(※)	5,496億円	▲ 1.7%	5,488億円	▲ 0.1%	5,488億円	▲ 0.0%
富国生命	3,851億円	▲ 2.9%	3,785億円	▲ 1.7%	3,731億円	▲ 1.4%
フコクしんらい生命	1,644億円	1.2%	1,703億円	3.5%	1,756億円	3.1%
保険料等収入	6,299億円	9.1%	5,847億円	▲ 7.2%	6,320億円	8.1%
富国生命	5,335億円	1.5%	4,850億円	▲ 9.1%	4,864億円	0.3%
フコクしんらい生命	964億円	86.0%	997億円	3.5%	1,455億円	45.9%
基礎利益	826億円	▲ 9.5%	828億円	0.3%	843億円	1.7%
富国生命	834億円	▲ 8.6%	843億円	1.1%	858億円	1.7%
保険関係損益	475億円	▲ 17.9%	472億円	▲ 0.6%	374億円	▲ 20.9%
利差	359億円	7.6%	370億円	3.2%	484億円	30.6%
フコクしんらい生命	▲ 8億円	—	▲ 14億円	—	▲ 14億円	—
連結ソルベンシー・マージン比率	1,331.7%	+ 95.3pt	1,303.9%	▲ 27.8pt	1,274.3%	▲ 29.6pt
富国生命	1,290.8%	+ 101.1pt	1,261.6%	▲ 29.2pt	1,234.2%	▲ 27.4pt
フコクしんらい生命	968.1%	▲ 10.0pt	1,084.9%	+ 116.8pt	1,117.1%	+ 32.2pt

※ 個人保険と個人年金保険の合計